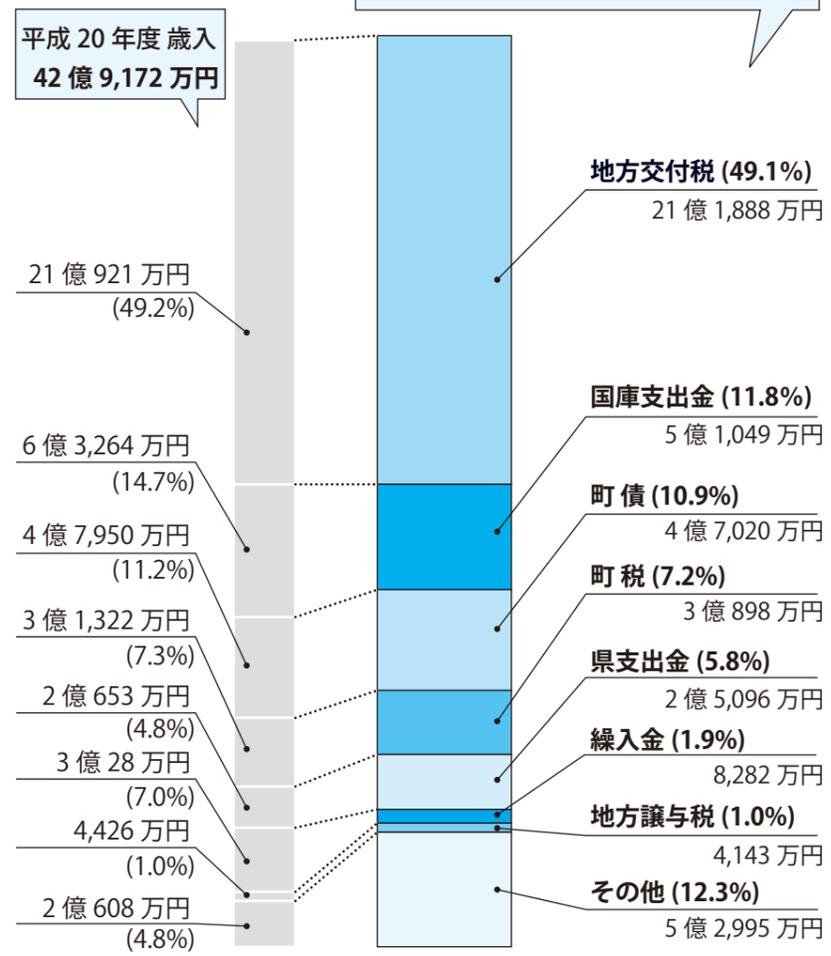


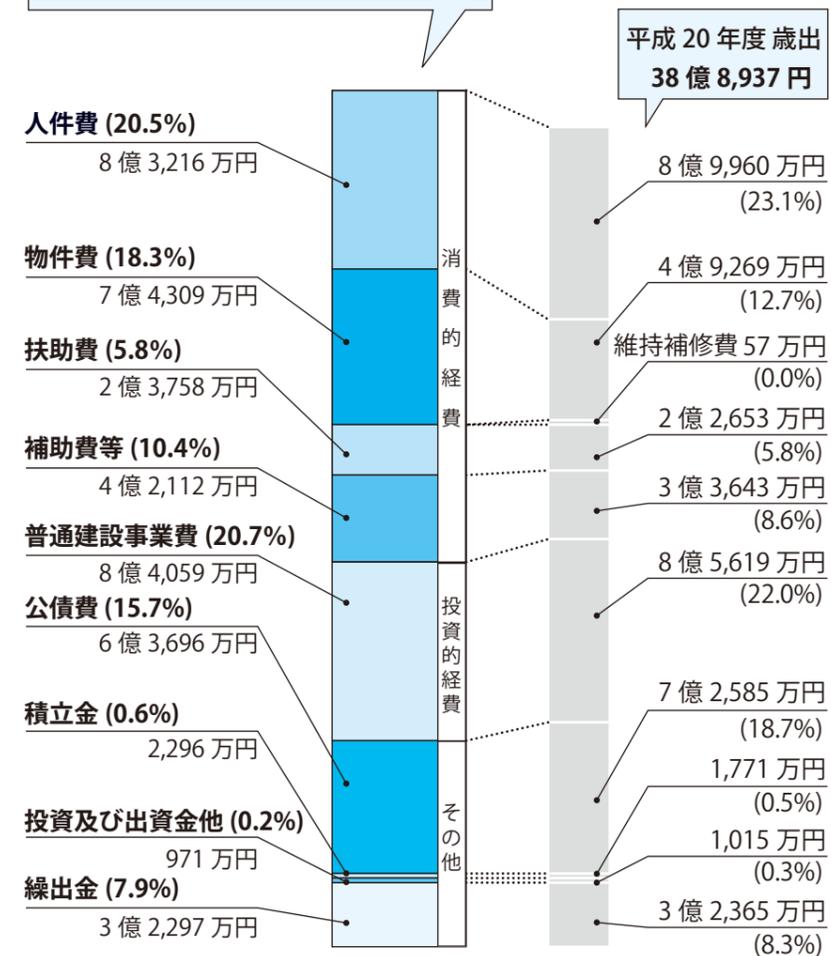
# 決算のあらまし

町のさまざまな仕事は、与論町のみなさまが納めた税金や、国や県からの支出金、町債などを財源として行われています。ここでは、みなさまの納めた税金などが、どのように活用されたのか、また町の財政状況は健全なのか、平成21年度の決算についてお知らせします。

平成21年度歳入  
43億1,371万円



平成21年度歳出  
40億6,714万円



## 特別会計の決算状況

特別会計とは、特定の事業を行う場合に、その他特定の歳入をもって特定の歳出に充て、一般会計の歳入歳出と区分して設置した会計です。平成21年度の特別会計の決算は、以下の通りです。

■国民健康保険特別会計	歳入 8億6,469万円	歳出 9億1,614万円	(差額は、一般財源より繰入)
■と畜場特別会計	歳入 109万円	歳出 109万円	
■老人保健特別会計	歳入 763万円	歳出 698万円	
■農業集落排水事業特別会計	歳入 1,331万円	歳出 1,331万円	
■介護保険特別会計	歳入 5億3,332万円	歳出 5億1,854万円	
■後期高齢者医療特別会計	歳入 5,690万円	歳出 5,632万円	

## 一般会計の歳入について

一般会計とは、福祉や教育、道路整備や公衆衛生など、地方自治体の基本的な施策を行うための会計です。平成21年度に与論町に入ってきたお金である一般会計の歳入額は、43億1,371万円、前年度より21億9,999万円の増加となりました。歳入の内訳は、上記グラフのとおりです。

平成21年度に、与論町が使ったお金である一般会計の歳出額は、40億6,714万円、前年度より1億7,777万円の増加となりました。歳出の内訳は、上記グラフのとおりです。

平成21年度に、与論町が使ったお金である一般会計の歳入額は、43億1,371万円、前年度より21億9,999万円の増加となりました。歳入の内訳は、上記グラフのとおりです。

## 一般会計の歳出について

平成21年度に、与論町が使ったお金である一般会計の歳出額は、40億6,714万円、前年度より1億7,777万円の増加となりました。歳出の内訳は、上記グラフのとおりです。

平成21年度に、与論町に使ったお金である一般会計の歳出額は、40億6,714万円、前年度より1億7,777万円の増加となりました。歳出の内訳は、上記グラフのとおりです。

## 与論町健全化判断比率 公営企業資金不足比率の公表

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の規定により、平成21年度決算に基づく4つの健全化判断比率と公営企業資金不足比率を公表します。

平成21年度は、いずれの比率も早期健全化基準を下回り、財政状況は健全段階であるという結果になりました。

項目	与論町	早期健全化基準
①実質赤字比率	-	(15.00)
②連結実質赤字比率	-	(20.00)
③実質公債費比率	15.0	(25.0)
④将来負担比率	108.8	(350.0)

1. ( )の数値は、早期健全化基準で、一つでもこの数値を超えると早期健全化団体になる。  
2. 実質赤字比率及び連結実質赤字がないため「-」を記載した。

特別会計の名称	与論町
与論町水道事業特別会計	0.0
与論町農業集落排水事業特別会計	0.0
与論町と畜場特別会計	0.0

資金不足比率：公営企業の資金不足を、公営企業の事業規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営状態の悪化の度合いを示したものです。

- ①実質赤字比率  
地方公共団体の最も主要な会計である「一般会計」等に生じている赤字の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものです。
- ②連結実質赤字比率  
公営企業を含む「地方公共団体の全会計」に生じている赤字の大きさを、財政規模に対する割合で表したものです。
- ③実質公債費比率  
地方公共団体の借入金の返済額の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものです。
- ④将来負担比率  
地方公共団体の借入金(地方債)など現在抱えている負債の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものです。